

令和6年度全国学力・学習状況調査の結果における校内分析から見た本校児童の様子

帯広市立豊成小学校 校長 平野 司

1 実施日

令和6年4月18日

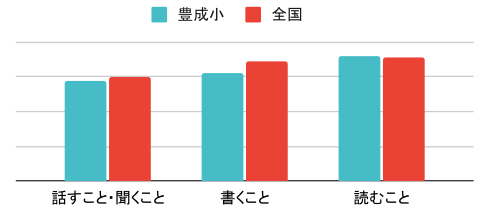
2 児童の実態(令和6年度全国学力・学習状況調査結果より)

(1) 各教科の概要(○:成果 ▲:課題)

①国語科

- 学習指導要領の内容「知識及び技能」の「情報の扱いに関する事項」において、全国の平均正答率を上回っています。
- 学習指導要領の内容「思考力、判断力、表現力等」では、「読むこと」の領域において全国の平均正答率を上回っています。
- 問題形式では、「短答式」に設問において、全国の平均正答率を大きく上回っています。また、「記述式」の設問においても、全国の平均正答率を上回っています。
- ▲ 国語科の平均正答率は、全国の平均正答率を下回っています。
- ▲ 学習指導要領の内容「思考力、判断力、表現力等」の「書くこと」の領域において、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することに課題が見られます。

領域別平均正答率



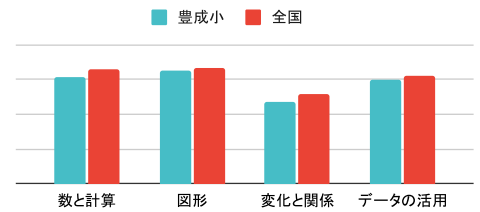
【今後に向けて】

- * 物語文を読んで人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることがよくできています。また、情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解することができています。日常の読書活動と、授業における文章を構造的に読み取る活動などにより力を付けていることがうかがえます。
- * 一方で、目的や意図に応じて、自分の考えが伝わるようにするための書き表し方の工夫に課題があります。伝えたいことを明確にし、客観的な事実を取り上げることで考えをより深めていくことができる能力を育む必要があります。意見文や提案文など、目的を意識した文章を書く場面を計画的に設定し、ICTを積極的に活用しながら、丁寧な個への働きかけを重ね、指導の充実を図っていきます。

②算数科

- 学習指導要領の領域「数と計算」「図形」について、基礎的・基本的な知識・技能が身についています。
- 昨年度と比較し、「図形」の領域において正答率が伸びています。
- 問題形式が記述式の設問において、全国平均正答率を若干下回るもの、無回答は少なく、ねばり強く問題に取り組もうとする姿勢が見られます。
- ▲ 算数科の平均正答率は、全国の平均正答率を下回っています。
- ▲ 学習指導要領の領域「変化と関係」において、他の領域と比べて正答率が低く、課題が見られました。
- ▲ 問題を日常生活と関連付けて読み取る力に課題が見られます。

領域別平均正答率



【今後に向けて】

- * 数の計算や図形において、基礎的・基本的な知識・技能は身につけていますが、その活用に課題が見られます。計算に関して成り立つ性質や、図形を構成する要素などの知識から、計算を能率的に処理したり、必要な情報を判断したりする能力を育む必要があります。子どもたちが主体となって、言葉や式、図形の要素などを手掛かりに、思考し表現する学習を計画的に位置付けていきます。
- * 速さの意味を理解したり、折れ線グラフから必要な数値を読み取ったりすることに課題が見られます。場面や目的に応じて比べ方を考察し、日常生活で活用していく指導を充実させます。

(2) 児童質問紙(○:全国と比べよい傾向が見られた項目 ▲:改善を図っていく必要がある項目)

【生活面】

- 人の役に立つ人間になりたい。
- いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。
- ▲ 友人関係に満足している。
- ▲ 学校に行くのは楽しいと思う。

【学習面】

- PC、タブレットを活用し、自分のペースで理解しながら、また友達と考えを共有したり比べたりなど協力しながら学習を進めることができる。
- 学習した内容について、分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができる。
- 先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれている。
- 自分と違う意見について考えるのが楽しい。
- 算数の問題で解き方がわからないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えている。
- 算数の授業で学習したことを、普段の生活で活用できないか考えている。
- 理科の学習が好き。
- 英語の学習が好き。
- ▲ 学校の授業時間以外の、1日当たりの学習時間。
- ▲ 学校の授業時間以外の、1日当たりの読書時間。
- ▲ 算数の授業の内容はよく分かる。

【今後に向けて(生活面)】

- * 人の役に立ちたい意識をもち、さらに、自分の将来の夢や目標をもったり、自分が今努力すべきことを考えたりする力が高いといえます。6年間を通じて進んでいるキャリア教育の積み重ねの成果であると考えます。
- * いじめについて、道徳の学習を生かし、日常生活の中で自分事として考える力がついています。日常においても、人を思いやる気持ちを大切にしながら学校生活を過ごすことができています。一方で、成長期の中で、友人関係に悩みを感じる児童もいます。児童の心に寄り添う温かい指導を続けていきます。

【今後に向けて(学習面)】

- * 日常の授業において、PC、タブレットを活用した学習が継続して行われているため、タブレット端末を自己の学習および友達との協働場面に効果的に活用することができています。今後さらに、自己の課題解決場面や考えや思いを表現する場面に、主体的に活用できる児童を育てていきます。
- * 学習の振り返りを次の学習につなげようという意識が高いです。これは本校の授業づくりで特に大切にしている事項であり、今後も、1時間の学習で何ができたのか、既習事項とどのようにつながっているのかなど、振り返りを次時につなげる学習を大切に続けていきます。
- * 算数については、あきらめずにいろいろな方法を考えたり、学習したことを日常生活で生かそうという意識があるものの、依然、授業内容が分からないと感じている児童が見られます。児童自身が成長を実感できるよう、これまで以上に「できた」「分かった」を感じることをできる1時間ごとの授業の積み重ねに努めていきます。
- * 授業以外での学習時間、また読書時間については、全国と比べ下回る結果となっています。ご家庭の協力もお願いしながら、楽しんで学んだり、読書をしたりするよさを伝えていくことが重要だと考えます。将来を見据え、学習習慣の確立と、読書の大切さを繰り返し指導していきます。